



秋も深まり、暖房器具を使用する時期になりました。インフルエンザやノロウイルスといった感染症も流行しやすい季節です。
加湿と換気をしながら、体調管理には十分気をつけていきましょう。

11月8日は「いい歯の日」

乳歯はエナメル質や象牙質が薄いため虫歯になりやすく、虫歯になった場合、乳歯の下に埋まっている永久歯にも感染を広げていきます。そのため、乳歯の虫歯予防・治療がとても大切になります。

仕上げ磨きしていますか？

睡眠中は唾液の分泌が低下し、細菌への抵抗力が非常に弱くなるため、虫歯のリスクが高くなります。夜の歯磨きの時には、丁寧にしっかり仕上げ磨きをしましょう。
上手に立ってられないうちは、保護者の膝の上に寝かせて磨きます。ハミガキ剤を使い始めたら、ハミガキ剤を飲み込みにくくするために、子どもを立たせて歯磨きをしましょう。
仕上げ磨きが必要な年齢の目安は、小学4年生（10歳）です。

フロスも使いましょう！

歯と歯の間が狭くなってくる2歳頃から、フロスを使い、汚れを完全に取り除いてあげましょう。

11月11日(木)は歯科検診です

朝食の後、丁寧に磨いて当園しましょう♪

熱性けいれんってどんな病気？

6カ月～5歳ごろの子どもが（主に2歳以下）急な発熱に伴って意識障害、けいれんを引き起こす病気です。

日本の子どもの5～10%に発症し、決してめずらしい病気ではありません。

熱の上がり際に多く、突然手足をがくがく震わせ、体を固くつっぱり、顔色が悪くなり、意識がなくなります。通常2～3分でおさまります。

熱性けいれんを起こしても、再発するのは30%程度で、成長とともに起こさなくなり、6歳過ぎにはほとんどみられなくなります。

熱性けいれんを起こしやすい病気としては、急に高熱を出す、突発性発疹・夏風邪・インフルエンザなどがあります。

けいれんが 起きたら...



- ① 体を横向きにして、吐いたものが気道につまらないようにします。
- ② けいれんが何分続くかを計り、発作中の様子を観察してください。
- ③ 5分以内におさまり、その後意識が戻れば、落ち着いてかかりつけを受診しましょう。
- ④ けいれんが5分以上続く場合や繰り返す時は、救急車を呼びましょう。

けいれんが起きた時は、保育士にも経過をお知らせください。
園でも、状況を把握して、発熱時等の備えをしたいと思います。

先月の子ども達の様子

ヘルパンギーナ（夏風邪）・熱性けいれん